



冬にはモモンガが住めるように
 入ロが大きいの巣箱

活動メモ
農大生も手伝いに

春の整備には今年も農大の鈴木ゼミの学生さんが来てくれました。ありがとうございます。

巣箱かけ

巣箱を3個かけました。秋の整備のとき、目の高さのエゾニワトコの枝に枯れ草の小鳥の巣があったのでおやおやと思いました。取り付けた巣箱にはさっそくゴジュウカラが営巣を始めています。

水芭蕉交流

旭川に転勤になられた養護学校の遠藤先生（当会会員、定年になり雨竜在住）の発案で旭川、雨竜、呼人の水芭蕉交流が始まりました。5月1日、数箇所呼人の水芭蕉群生地を回り交流昼食会をしました。「将来はどこかで水芭蕉サミットを開きたいね」と旭川の芦田さんが夢を語っておられました。各地の水芭蕉保全の様子を知りたいものです。旭川の斎藤さんはカメラマン（女性）で貴重な写真を水芭蕉写真展に出品して下さいました。

ホタル

昨年のホタルの発生は例年に無く活発でことに探鳥遊歩道の方は道路にも光りが散乱、原生林に光の尾を長く引き舞い上がった様子は息を呑むほど幻想的でした。しかし総会ではあまりポピュラーにしたいという意見が多数でした。

会員の皆様いかがお過ごしでしょう。水芭蕉通信3号をお届けします。桜も終わり、朝夕ストーブをたいていますが新緑がまぶしいこのごろです。今朝オオアマドコロにすぎたエゾハルゼミの抜け殻を見つけました。

保全地の状況

今年の水芭蕉は花に比べ葉の成長が早く、花は全体に小さめでした。それでもシーズン中は、枯れ木が影を映した水面に花が広がり訪れた人達を楽しませてくれました。近くに住んでいるキタキツネも時々水芭蕉を見に来ていました。たぶん冬の間ホトチャレ（蛙）を食べていたのでしょう。

国道側の林床は暗渠埋設（2000年）の影響が大きく乾燥化が進行しています。乾燥化対策として保水の方法は、林縁の側溝の上流から林内に水を引く棚田式、流れ出し面の土盛りが考えられます。側溝の下流に作ったセキは増水時岸をえぐり道路を崩すので撤去されました。国道側林縁のヤナギが成長し始めました。対策を考えたいと思います（そのままという考えと、景観上むさ苦しいという考えがあります）。

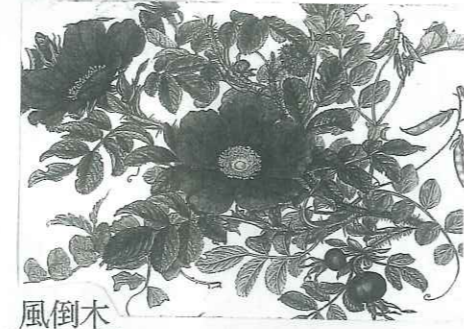
側溝整備の目的は、杭打ちをして道路からの土砂の崩れ防止（観光客が岸で写真を撮るので）と保全地の土砂流出の防止です。今年は40本程の杭を打ちました。市は材料を提供するから道路側も自分たちで直さないということで皆で協議したいと思います。

法面景観

「北浜の法面を原生花園に」というプロジェクトが開発局によって昨年からスタートしていましたが、要請があつて当会も有志が参加しています。流水街道ともいわれるオホーツク海と知床半島を一望する海岸道路、約2キロが殺風景な張り芝の法面になっています。国定公園、観光地としてもこのままではすまないということなのでしょう。市民グループや町内会も参加しています。良い結果が生まれることを期待します。

写真展

「水芭蕉写真展」の出品者は10人、作品は24点でした。今年は水芭蕉だけではなく、《水芭蕉+α》というコーナーもつくり、水芭蕉に幅を持たせました。賛助出品下さった旭川の斎藤さんの作品は、水芭蕉を時間的にとらえた特異な表情が印象的でした。



風倒木

保全地近く国道沿いの風倒木、新たに発生したものを含めて目立ちます。どこも水芭蕉の咲く湿地で気になっていますが、自分の雑木林の風倒木の片付けに追われて（清水、溝淵）今は手が出せません。本州の里山を守る会には「薪ストーブ倶楽部」をつくり行政や地主と話しあつて風倒木の片付けや間伐をしているところもあり、参考にしたいと思います。保全地の斜め前の本間さん（国定公園内）からカンパを頂きました。秋には仲間を募って倒木整理が出来ればと思います。

里山

今日本の各地に「里山」の意識が生まれています。私たちの水芭蕉保全地も、開発から守られた里山といえるでしょう。自然と人の住むところとの境界にある「ゾーン」としての里山の意義は、都市化が進めば進むほど大きくなるに違いありません。

18年度事業報告

4月《総会》《保全地春の整備及び風倒木処理（保全地及び隣接地）》 当会、シーニックパイウエイ、農大鈴木ゼミ、一般市民による

5月《水芭蕉通信発行》発送

8月《ホタル観察》個人で行う

11月《保全地秋の整備、風倒木処理》

その他

- ・シーニックパイウエイ会議参加（4回）
- ・みどりの会会議（網走支庁、2名参加）
- ・「景観と緑の基本計画」ワークショップ参加（網走市）
- ・北浜の法面原生花園化プロジェクト参加（道開発局主催）
- ・水辺ネット会議参加（道開発局主催）

19年度事業計画

- ①総会
- ②保全地春の整備
- ③周辺風倒木整備
- ④水芭蕉写真展
- ⑤水芭蕉通信発行、発送
- ⑥フラワーソンへの参加
- ⑦各種ネットワークへの参加
 - ・水芭蕉ネットワーク（網走、旭川、雨竜）
 - ・シーニックパイウエイ
 - ・北浜法面緑化プロジェクト
 - ・みどりのネットワーク
- ⑧ホタル観察会
- ⑨保全地秋の整備

18年度決算報告

収入	
会費	60,000
39名（会費先払いを含む）	
カンパ	11,000
風倒木片付け	31,215
当期収入合計	102,215
前期繰り越し金	12,643
収入合計	114,858

支出	
通信費	8,100
事務費	15,400
会場費	3,000
雑費	5,988
当期支出合計	32,488
次期繰り越し金	82,370
現金・貯金	
通帳残高	12,058
現金	70,312
残高合計	82,370

会計 溝淵由美
 監査 菊地隆司 浅利清治

網走湖水と緑の会
会員募集

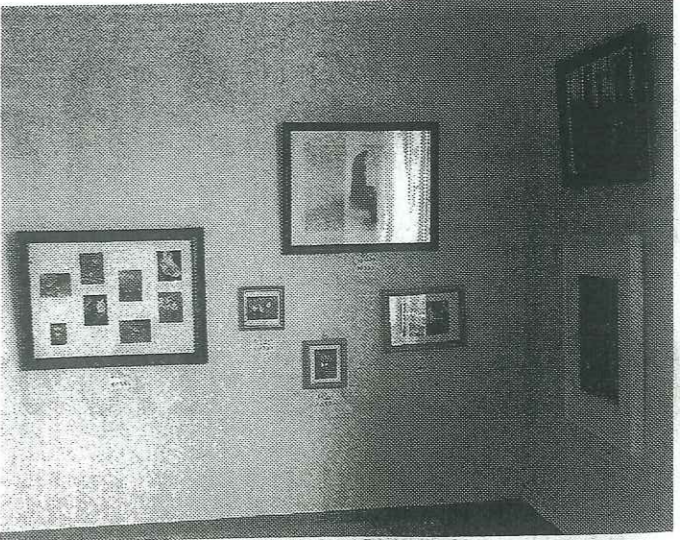
- ・年会費 1,000円
- ・カンパ歓迎
- ・事業 水芭蕉群生地の保全活動／自然観察会／水芭蕉写真展／里山交流／年一回「水芭蕉通信」発行

郵便振替口座
 口座名「網走湖・水と緑の会」
 口座番号 02730-3-20099
 連絡先 TEL・FAX 0152(48)2223

ふれっぶ
多様な水芭蕉を撮影
 網走湖と緑の水と緑の会
19日まで写真展

呼人のミズバシヨウ群落を守ろうと活動している「網走湖水と緑の会」（清水晶子代表）の「わたしたちの水芭蕉写真展」が、呼人の喫茶店「ふれっぶ」で開かれています。同会の会員など10人が撮影したミズバシヨウの写真を25点を展示している。

ミズバシヨウの群落の中を歩くキタキツネ、雪の衣をまとったもの、澄んだ水の中で咲く様子といったミズバシヨウのさまざまな表情を、それぞれの視点で撮影した作品が並んでいる。展示は19日まで、日曜は定休。



ミズバシヨウのさまざまな表情が楽しめる写真展